

和歌山県有田郡吉備町

旧吉備中学校校庭遺跡

県営緊急畑地帯総合整備事業
に係る発掘調査概要報告書

1992年10月

財団法人 和歌山県文化財センター

和歌山県有田郡吉備町
旧吉備中学校校庭遺跡

県営緊急畑地帯総合整備事業
に係る発掘調査概要報告書

1992年10月

財団法人 和歌山県文化財センター

序

旧吉備中学校校庭遺跡は、有田川下流左岸の沖積平野に所在する弥生時代の遺跡であります。

遺跡地は遺跡名称が示すとおり昭和42年まで吉備中学校が所在した地です。その後、民間の製罐工場が建設されておりますが、昭和47年に運動場跡地で弥生土器が採集され、遺跡の存在が確認されるにいたっております。

平成2年度から同5年度にわたり、和歌山県が緊急畑地帯総合整備事業の一環として当地域の農道及び排水路を総合的に整備することとなり、この整備に先立って、当センターが発掘調査を実施いたしました。

本書は、その成果をまとめた概要報告書であります。当地方の歴史を知る上での一助となれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査にあたり種々ご協力いただいた関係各位並びに地元の皆様に深く感謝の意を表し、併せて厚くお礼を申し上げます。

平成4年10月

財団法人 和歌山県文化財センター
理事長 仮谷 志良

例 言

- 1 本書は、県営緊急畑地帯総合整備事業に伴う旧吉備中学校校庭遺跡の発掘調査の概要報告書である。
- 2 発掘調査は、和歌山県の委託を受け、財団法人和歌山県文化財センターが実施した。
- 3 発掘調査は、和歌山県教育委員会ならびに財団法人和歌山県文化財センター調査委員会の指導を受け、土井孝之が担当した。
- 4 発掘調査ならびに本書で使用した標高はT. P+の数値で、北方位Nは国土座標第VI系の座標北を示す。
- 5 本書で使用した遺構の略号は、土坑—S K、溝—S D、溜桝—S F、柱穴状遺構—Pである。
- 6 発掘調査ならびに遺物整理に使用した遺跡の略号は、K K Cである。
- 7 本書で使用した遺物番号は、本文・挿図・写真図版すべてに共通する。ただし、30番台の遺物は写真図版のみである。
- 8 本書の作成は、土井が担当した。
- 9 調査にあたり、和歌山県有田県事務所農地課、吉備町教育委員会の協力及び配慮を得た。記して感謝の意を表したい。
- 10 調査の組織は以下のとおりである。

調査組織

| | |
|------|-----------------------|
| 調査委員 | 羯磨 正信（和歌山県文化財保護審議会委員） |
| | 巽 三郎（ ” ） |
| | 都出比呂志（ ” ） |
| | 藤澤 一夫（ ” ） |
| 事務局 | 事務局 長 鍋島 伊津夫 |
| | 事務局 次長 菅原 正明 |
| | 管 理 課 長 松田 正昭 |
| | 埋蔵文化財課長 辻林 浩 |
| | 埋蔵文化財課技師 土井 孝之（調査担当） |

本文目次

| | |
|----------------------|----|
| I 位置と環境 | 1 |
| II 調査に至る経緯 | 4 |
| III 調査区及び調査の方法 | 5 |
| IV 調査の内容 | 6 |
| V まとめ | 10 |

図表目次

| | |
|------------------------|---|
| 第1図 遺跡の位置と周辺 | 2 |
| 第2図 調査地区の位置 | 5 |
| 第3図 土坑S K 4・5実測図 | 7 |
| 第4図 土坑S K17実測図 | 8 |
| 第5図 調査遺構全体図 | |
| 第6図 調査区西壁土層図 | |
| 第7図 出土遺物実測図 | |
| 第8図 出土遺物実測図 | |
| 写真 調査地から天満古墳群を望む | 1 |
| 表 遺跡地名一覧 | 3 |

写真図版目次

| | |
|---|--|
| 写真図版一 調査地遠景（北から） 調査前の状況（南から） | |
| 写真図版二 南側調査区遺構全景（南から） | |
| 写真図版三 南側調査区遺構全景（北から） | |
| 写真図版四 北側調査区遺構全景（南から） | |
| 写真図版五 北側調査区全景（北から） 溝S D 1（北から） | |
| 写真図版六 溜柵S F 3・S D 2（南から） 土坑S K 4・5（東から） | |
| 写真図版七 土坑S K17（南東から） 土坑S K19（西から） | |
| 写真図版八 出土遺物 | |
| 写真図版九 出土遺物 | |

I 位置と環境

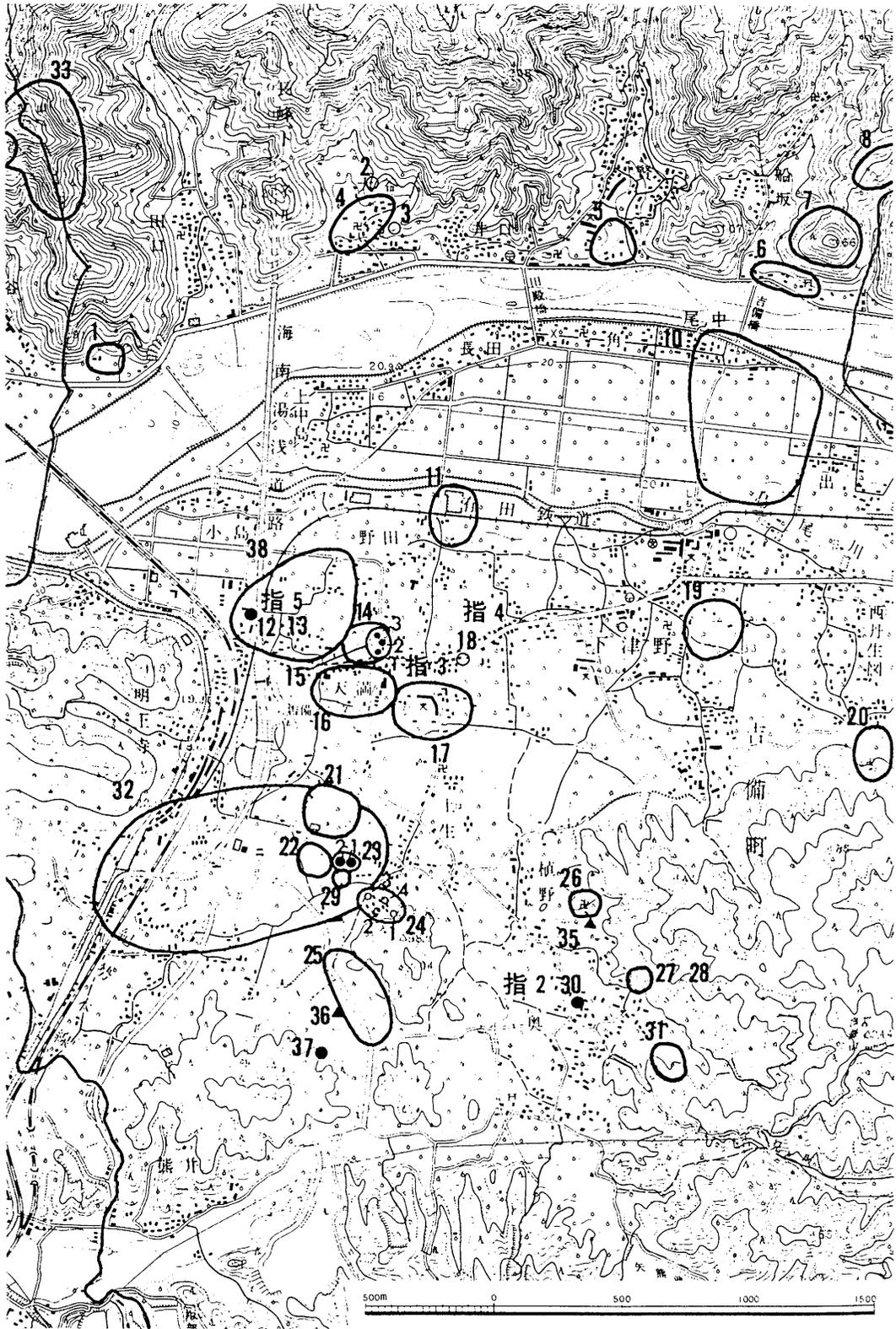
旧吉備中学校校庭遺跡（11）は、高野山に源を発する有田川下流左岸の沖積平野の南端から河岸段丘の北縁に接して位置し、標高17m前後の範囲にある。今次の調査地は、この下位段丘のほぼ中ほどに当り、従来の遺跡範囲とは明らかに異なる立地に位置している。調査においても、砂礫層の遺構ベースが確認されており、調査地が有田川の浸食作用によって形成された段丘上に立地することが明らかになっている。遺跡の主体は、旧有田川の流に接して形成された沖積平野に存在すると考えられる。

当遺跡の周辺には、昭和28年の大洪水によって発見された田殿・尾中遺跡（10）を始め、古くから地理的要衝の地として栄えた数多くの遺跡が存在している。

旧石器時代では、有田川から少し離れた土生池遺跡（25）や藤並地区遺跡（32）から出土したナイフ形石器・有舌尖頭器などからその当時の生活の一端を垣間見ることができ、当地方に比較的古くから人々の営みのあったことが確認されている。



写真 調査地から天満古墳群を望む（北から）



第1図 遺跡の位置と周辺

(和歌山県教育委員会 平成元年3月発行 『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』使用)

| 遺跡番号 | 名 称 | 所 在 地 | 種 類 | 時 代 | 地目立地 | 摘 要 |
|------|-----------------|------------------------|-----------|--------|------------|--|
| 1 | 田 殿 廃 寺 跡 | 有田郡吉備町尾中 | 寺院跡 | 奈良 | 山麓 | 瓦 |
| 2 | 大 谷 古 墳 | 有田郡吉備町大谷 | 古 墳 | 古墳 | 尾根端 | 須恵器 |
| 3 | 大 谷 2 号 墳 | 有田郡吉備町大谷 | 古 墳 | 古墳 | 尾根端 | 円墳、鉄刀 |
| 4 | 築 那 院 跡 | 有田郡吉備町大谷 | 寺院跡 | 平安 | 畑、宅地 | 仏像瓦、瓦器、文字瓦 |
| 5 | 賢 遺 跡 | 有田郡吉備町賢 | 散布地 | 奈良 | 畑 | |
| 6 | 夏 瀬 の 森 遺 跡 | 有田郡吉備町出 | 散布地 | 弥生 | 山麓 | 弥生土器 |
| 7 | 夏 瀬 の 森 祭 祀 遺 跡 | 有田郡吉備町出 | 祭祀跡 | 弥生 | 山林 | 神奈備形の山岩、弥生土器 |
| 8 | 最 勝 寺 跡 | 有田郡吉備町出 | 寺院跡 | 平安 | 畑、山腹 | 瓦、石造遺物 |
| 10 | 田 殿 ・ 尾 中 遺 跡 | 有田郡吉備町尾中 | 散布地 | 弥生～室町 | 畑、水田 | 竪穴式住居、弥生土器、石器、瓦器 |
| 11 | 旧吉備中学校校庭遺跡 | 有田郡吉備町下津野 | 散布地 | 弥生 | 河岸段丘 | 弥生土器 |
| 12 | 野 田 の 宝 篋 印 塔 | 有田郡吉備町野田 | 石 塔 | 鎌倉 | 河岸段丘 | |
| 13 | 観 音 寺 跡 | 有田郡吉備町野田 | 寺院跡 | 平安～室町 | 河岸段丘 | 布目瓦、瓦器 |
| 14 | 藤 並 遺 跡 | 有田郡吉備町天満 | 散布地 | 古墳 | 畑 | 須恵器、土師器 |
| 15 | 天 満 古 墳 群 | | 古墳群 | 古墳 | | |
| 15-1 | 天満1号墳(泣沢女の古墳) | 有田郡吉備町天満 | 古 墳 | 古墳 | 神社境内 | 古墳、横穴式石室 |
| 15-2 | 天 満 2 号 墳 | 有田郡吉備町天満 | 古 墳 | 古墳 | 神社境内 | 円墳 |
| 15-3 | 天 満 3 号 墳 | 有田郡吉備町天満 | 古 墳 | 古墳 | 神社境内 | 円墳 |
| 16 | 天 満 I 遺 跡 | 有田郡吉備町天満 | 散布地 | 古墳 | 畑 | 土師器 |
| 17 | 天 満 II 遺 跡 | 有田郡吉備町天満 | 散布地 | 古墳 | 畑 | 土師器 |
| 18 | 宗 祇 法 師 屋 敷 跡 | 有田郡吉備町下津野 | 旧 宅 | 室町(?) | 平地 | 碑、古井戸 |
| 19 | 藤 並 城 跡 | 有田郡吉備町下津野 | 城 跡 | 室町 | 平地 | 濠 |
| 20 | 石 ケ 谷 遺 跡 | 有田郡吉備町西丹生 ^凶 | 散布地 | 古墳 | 畑 | 須恵器 |
| 21 | 羽 釜 古 窯 跡 | 有田郡吉備町土生 | 窯 跡 | 中世 | 水田 | 瓦器 |
| 22 | 城 山 窯 跡 群 | 有田郡吉備町土生 | 窯 跡 | 古墳～平安 | 丘陵裾 | 須恵器、瓦 |
| 23 | 地 蔵 山 窯 跡 群 | 有田郡吉備町土生 | 窯 跡 | 古墳～平安 | 丘陵裾 | 須恵器、瓦(奈良～平安時代) |
| 24 | 風 呂 の 谷 窯 跡 群 | 有田郡吉備町土生 | 窯 跡 | 奈良～鎌倉 | 山腹 | 須恵器片、瓦(奈良、鎌倉時代) |
| 25 | 土 生 池 遺 跡 | 有田郡吉備町土生 | 散布地 | 先土器、平安 | 山麓 | ナイフ形石器、削器、搔器、石核、土師器 |
| 26 | 長 楽 寺 跡 | 有田郡吉備町植野 | 寺院跡 | 中世 | 畑、山麓 | |
| 27 | 八 幡 神 社 板 碑 | 有田郡吉備町植野 | 碑 | | 境内 | |
| 28 | 八 幡 神 社 宝 篋 印 塔 | 有田郡吉備町植野 | 石 塔 | | | |
| 29 | 地 蔵 山 遺 跡 | 有田郡吉備町土生 | 散布地 | 平安 | 畑 | |
| 30 | 奥 宝 篋 印 塔 | 有田郡吉備町奥 | 石 塔 | | | |
| 31 | 奥 I 遺 跡 | 有田郡吉備町奥 | 散布地 | 平安 | 畑 | 瓦器 |
| 32 | 藤 並 地 区 遺 跡 | 有田郡吉備町土生 | 散布地 | 先土器～中世 | 平地 | ナイフ形石器、土師器、瓦器 |
| 33 | 岩 室 城 跡 | 有田郡吉備町田口 | 城 跡 | 中世 | 山林 | 湯浅氏、畠山氏の城、天勝13年落城、二の丸三の丸の平担部が残存する。 |
| 35 | 奥 II 遺 跡 | 有田郡吉備町奥 | 出土地 | 縄文 | 丘陵 | 有舌尖頭器 |
| 36 | 土 生 池 南 岸 遺 跡 | 有田郡吉備町土生 | 出土地 | 古墳 | 丘陵 | 須恵器甕 |
| 37 | 土 生 池 須 恵 器 窯 跡 | 有田郡吉備町土生 | 窯 跡 | 奈良 | 丘陵 | 坏、坏蓋 |
| 38 | 野 田 地 区 遺 跡 | 有田郡吉備町野田 | 寺院跡 ほか | 先土器～中世 | 段丘・氾 濫原 | 掘立柱建物、宝篋印塔、大溝、石核、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦、瓦器、建築材、木器、こけら経、下駄など |

表 遺跡地名一覧

(和歌山県教育委員会 平成元年3月発行 『和歌山県遺跡地名表』に一部加筆)

縄文時代の当地方の様相はあまり明らかでないが、近年の調査で僅かに、野田地区遺跡(38)・藤並地区遺跡で後期の土器が出土しているに過ぎない。

弥生時代では、田殿尾中遺跡を中心的な集落として、野田地区遺跡などがある。もう少し広い視野で当地域の弥生時代を見ると、田殿尾中遺跡は有田川左岸に形成された沖積平野の東側(自然堤防)に環濠によって囲まれた集落を構え、西側にかなり大規模な水田を抱えていたことが調査により明らかにされている。往時、田殿尾中遺跡は旧吉備中学校校庭遺跡の対岸にあったものと考えられる。このような平野部の集落を取り囲むような位置に有田川の河口に向かって、丘陵上には後期の高地性集落がいくつかのグループを形成して分布しており、有田川下流域の弥生時代集落の動向が比較的解明されてきている地域でもある。

古墳時代では、集落跡は明らかにされていない。僅かに藤並神社の境内に所在する天満古墳群(15)や有田川右岸の大谷古墳(2)があり、土生の地域には城山窯跡群(22)・地蔵山窯跡群(23)など多くの窯場が作られ、古墳時代後期以後平安時代まで須恵器ないしは瓦が焼かれていたものと考えられている。

奈良時代では、川原寺系の軒丸瓦を持つ田殿廃寺跡(1)、前代から続く窯跡の他に風呂の谷窯跡群(24)が作られるようになる。藤並地区遺跡に包括される土生の地域では須恵器の集積地と考えられる地点も発見されている。

II 調査に至る経緯

当該整備事業は、有田川左岸の河岸段丘上の農道及び排水路が十分に整備されていないため、緊急に農道を整備することにより、農産物等の流通体系を確立し走行経費の節減を図り、また排水路整備により農産物の生産向上、品質向上を図ることにより、農業基盤の整備、農業経営の安定を目指すことを目的としたもので、平成2年度から同5年度の予定として採択された藤並地区工事の一環として計画されたものである。

当該調査地区は、周知の旧吉備中学校校庭遺跡に隣接することから、排水路施工時に県教育委員会による立会い調査が実施された。この立会い調査成果に基づいて、当該調査地区周辺で奈良時代の遺物の散布、ピット状遺構の存在が確認されたため、排水路の管理用道路の新設工事に先立ち調査することとなった。

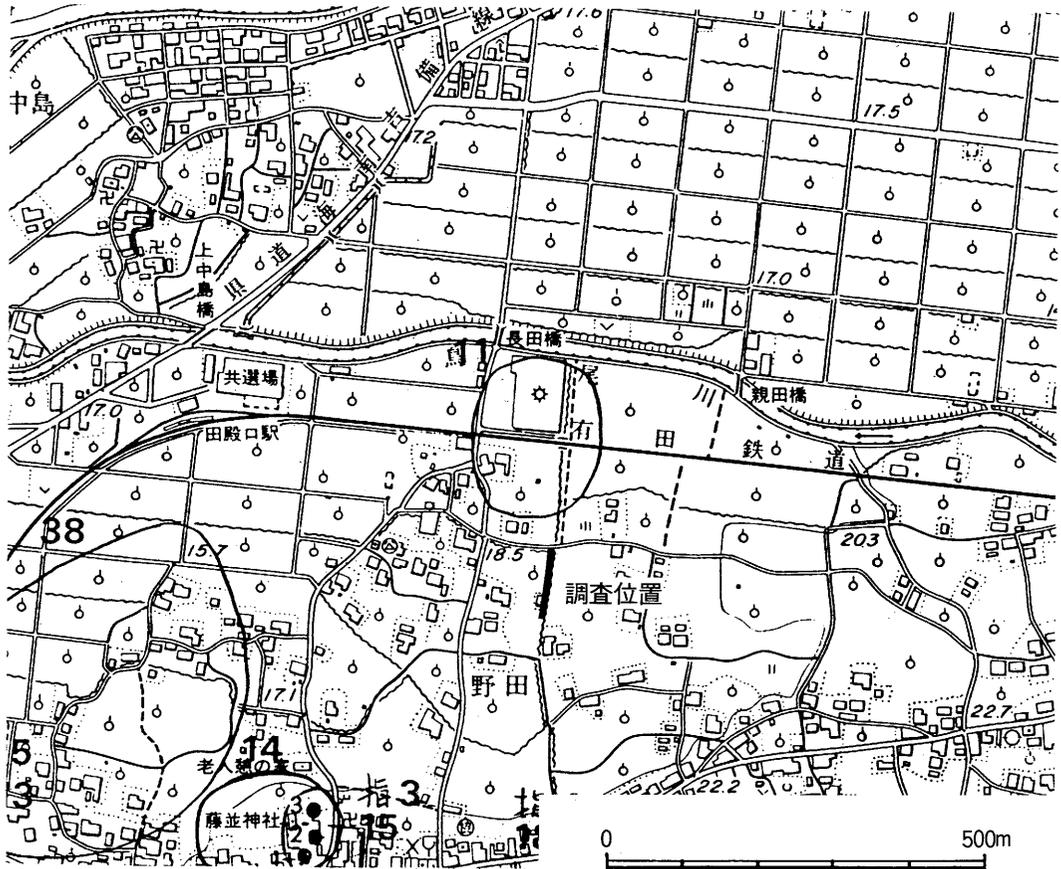
III 調査区及び調査の方法

調査地は、現在の行政区画で吉備町野田字高広53-1・2、52-1・2に所在し、幅員約3m、延長86m、面積258㎡を対象に調査を実施した。遺跡名は、受託事業名ならびに、調査地が周知の旧吉備中学校校庭遺跡に隣接することから旧吉備中学校校庭遺跡の名称を使用した。

調査は、表土（耕作土）及び蜜柑畑造成に伴う客土を重機により機械掘削し、その後、整地以下を人力によって掘削した。

調査区は、国土座標（第Ⅵ系） $X = -214.550\text{km}$ 、 $Y = -72.770\text{km}$ を基準点として区割りを行い、南北4mを1つの区画として遺物の取り上げを行っている。

調査区は、掘削排土の置場を考慮したため、南側半分と北側半分に分けて調査を実施した。



第2図 調査地区の位置

IV 調査の内容

1 調査の概要

調査区の東側は、既に用水路の工事のため南北に並行して掘削されており、調査区内の遺構の全容を把握できたものは数少ない。

検出した遺構・遺物の大半は、江戸時代後期から昭和にかけての物で、調査区の北半部から奈良時代の土師器・須恵器（写真図版九30・31）の破片が僅かに出土したに留まる。

2 調査区の基本層序

調査区は全体に北から南に緩やかに傾斜して低くなっており、上層から順に、耕作土（第1層）、ベース土に淡黒褐色土の入り込んだ堆積土（第2層）となる。耕作土は、調査区の南側半分では上下2層に区別でき、下層（耕土2）は黒褐色土となる。遺物の大半は、耕作土から出土しており、上下層で遺物による時期差は存在しない。今次の調査では、下層の黒褐色土も遺物包含層でなく耕作土の一部であることが明らかとなった。

遺構の大半は、耕作土除去面で検出したもので、遺構検出面（ベース）は南側の一部を省けば、礫層ないしは砂質土層である。

以下、主要な遺構について記述を行う。

3 検出遺構と出土遺物

溝SD1（写真図版五）

調査区の南端に位置し、幅員0.6～0.75m、深さ19～30cm、延長2.8m分を検出した。溝は東から西方向に延び、耕作土中に存在する現在の石垣に重複する位置にある。また、溝の西側中央には幅20cm、深さ5～10cmの浅い凹みを取り付き、調査区外へと続く。遺物は僅かに肥前系磁器（16）が出土するのみであるが、土層観察から現在の石垣に先行する溝である。

溝SD2・溜桝SF3（写真図版六）

調査区の南半に位置し、SD2は幅員0.25～0.45m、深さ30cm、延長2.1m分を検出した。溝は緩やかに蛇行して西から東方向に延び、東側の用水路に流れ込んでいたものと考えられる。SF3は大半が調査区外にかかるため規模は明らかでない。SD2とSF3の底面の深さはほぼ同じである。土層観察からSD2→SF3の順で埋没したことが明らかとなった。遺物はSF3から七輪（22～24）・瓦片（25）・ガラス破片などが出土しており、昭和の中頃に存在した民家に伴う水屋の施設と考えられる。

土坑SK4（第3図・写真図版六）

調査区の南半中央に位置し、土坑が4基重複する中で最も新しいと考えられる。東西にやや長く、東西約1.5m分、南北1.1m、深さ30cmを測る。基底面は三段に落ち込んで、礫の入り込んだ黒色の灰と暗赤褐色弱砂質土が埋土となる。

土坑SK5（第3図・写真図版六）

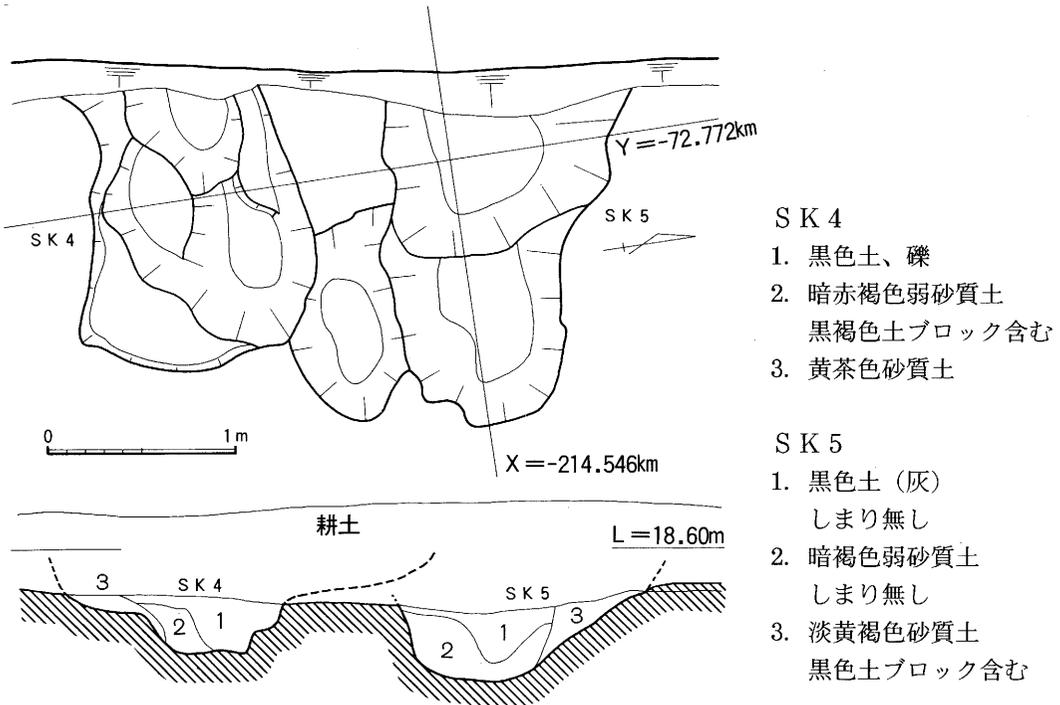
SK4の北側に位置し、東西0.75m分、南北1.3m、深さ40cmを測る。埋土は全く砂利が混入せず、黒色の灰と暗赤褐色弱砂質土となる。平面形はSK4同様に不整形を呈する。重複する3基の土坑を含めて考えると、近接する地点で土坑の掘削を繰り返した結果と考えられる。

土坑SK6

SD1の北側に位置し、東西1.3m、南北1.6m分、深さ20cmを測る。埋土は、淡黄褐色弱粘質土（ベース）に黒褐色土の小ブロックが入り込んだ汚い堆積土である。

土坑SK7

調査区の中央南寄りに位置し、東西1.8m分、南北3.4m、深さ4~9cmを測る浅い土坑である。平面形は歪つで、埋土は黄褐色弱粘質土に黒褐色土の小ブロックが入り込んだ堆積



第3図 土坑SK4・5実測図

土である。

土坑S K 8

S K 7の北側に位置し、東西1.1m、南北1 m、深さ10cmを測る。埋土は淡茶褐色細砂である。

土坑S K 9

S K 8の北側に位置し、東西1.7m分、南北1.2m、深さ9~15cmを測る。埋土は淡黄褐色砂礫である。

土坑S K10

調査区の中央北寄りに位置し、東西0.75m分、南北1.3m、深さ50cmを測る。掘り込みは二段に落ち込み、下層に暗赤褐色土と黒色の灰が堆積していた。

土坑S K11

調査区の北半南寄りに位置し、非常に歪つな土坑である。東西0.9m分、南北0.9m、深さ30cmを測る。埋土は上層淡黒褐色弱砂質土と下層淡黄褐色砂質土+礫に区別できる。

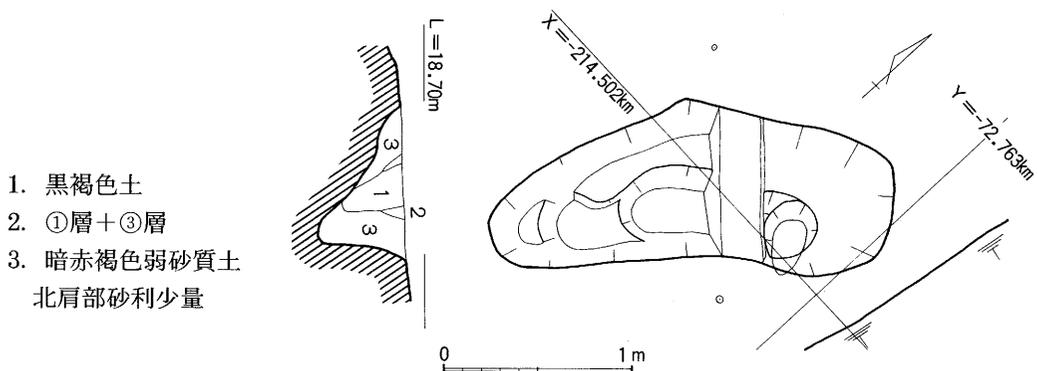
土坑S K12

S K10の東側に位置し、現在の電柱の埋設坑に一部重複する土坑である。東西0.9m、南北0.5m、深さ10cmを測る。埋土は淡茶褐色砂礫に黒色土のブロックが入り込んでいる。

土坑S K13

調査区の北半中央S K11の北側に位置し、東西1.1m分、南北4.2m、深さ40cmを測る大形の土坑である。埋土の上層には礫・砂利が、下層には焼土を含む暗赤褐色土が堆積していた。

土坑S K17 (第4図・写真図版七)



第4図 土坑S K17実測図

調査区の北半中央に位置し、短軸0.8m分、長軸 2.15m、深さ70cmを測る。基底面は四段に落ち込んでおり、上層に黒褐色土、下層に暗赤褐色弱砂質土が堆積していた。土坑の北東部では、上面から楕円形状の掘り込みが確認されており、別遺構が重複していたものと考えられる。

土坑 S K18

調査区の北半に位置し、調査区内で逆「L」字状に折れ曲がる土坑である。埋土は淡茶褐色砂質土（ベース）に淡黒褐色土が入り込んだ堆積土である。

土坑 S K19（写真図版七）

調査区の北端に位置し、東西1.6m分、南北3.5m、深さ50cmを測る大形の土坑である。埋土は S K 4・5 や S K10 に類似する黒色の灰と淡赤褐色土・淡茶褐色礫混入砂質土である。

土坑 S K20

調査区の南半に位置し、土層観察から S K21 が埋められて以後に耕作土を切り込んで掘削されている。埋土に礫（第2層）、黒色土（第3層）などがある。

土坑 S K21

S K20の北側に位置し、楕円形状の掘形を呈するものと考えられる。土層観察から、側と底面に粘質土を貼り付けた痕跡が認められた。

なお、S K 6・20・21 付近は、機械掘削によるベース確認のため、土坑の大半を逸失する結果となった。

P i t 14～16

直径32～36cm、深さ28～43cmを測り、比較的遺存状態の良い柱穴状の遺構であるが、埋土が耕作土に類似する淡黒褐色土ないし暗黄色砂質土で締まりが無いため、他の遺構同様の時期と考えられる。また、掘立柱建物跡の一部とは考えがたい。

その他、調査区内で蜜柑畑に伴うものかどうか不明確な多数の土坑状の掘り込みを確認したが、出土遺物が無く、時期も明確にし得ていない。

V まとめ

今回の調査区では、奈良時代の僅かな土器片を省けば、他は全て江戸時代後期以後の遺物であり、即断は許されないが、周知の旧吉備中学校校庭遺跡の弥生時代遺跡の範囲から外れるものである。また、調査区の東側に接する用水路の掘削工事（南北約370mに渡り施工されている）の際に、調査区の北側に接する範囲から奈良時代の土器片が数点採集されていることを考え合わせると、奈良時代の遺跡の範囲も今回の調査区より北側に存在する可能性が高いものと考えられる。

また、調査区の南約150m以南は、用水路工事の際に湿地状の堆積土が認められ、地元の方の話でも付近は湿田であったと言う事から中段段丘の北側裾に沿って、一時期小河川の流水ないし滞水のあったものが湿地化したものと考えられる。

なお、調査の内容で記述した黒褐色土（耕土2）は、遺物包含層でないとしたが、過去に調査の実施された田殿尾中遺跡や天満古墳群の調査でも確認されており、かなり広範囲に堆積した土砂と考えられる。この黒褐色土の堆積時期は判然としないが、当調査区では江戸時代後期以後に黒褐色土の下部まで人為的な手が増えられたものと判断される。

今後の調査では、過去に調査の実施された田殿尾中遺跡や野田地区遺跡と関連する遺構・遺物は検出されなかった。今後、旧吉備中学校校庭遺跡の弥生時代や奈良時代の遺構の南限をより明確にするためには、周知の遺跡の範囲と今後の調査区の間を精査する必要があるものと考えられる。

参考文献

「第2編考古」『吉備町誌』 上巻 吉備町誌編纂委員会 1980年3月

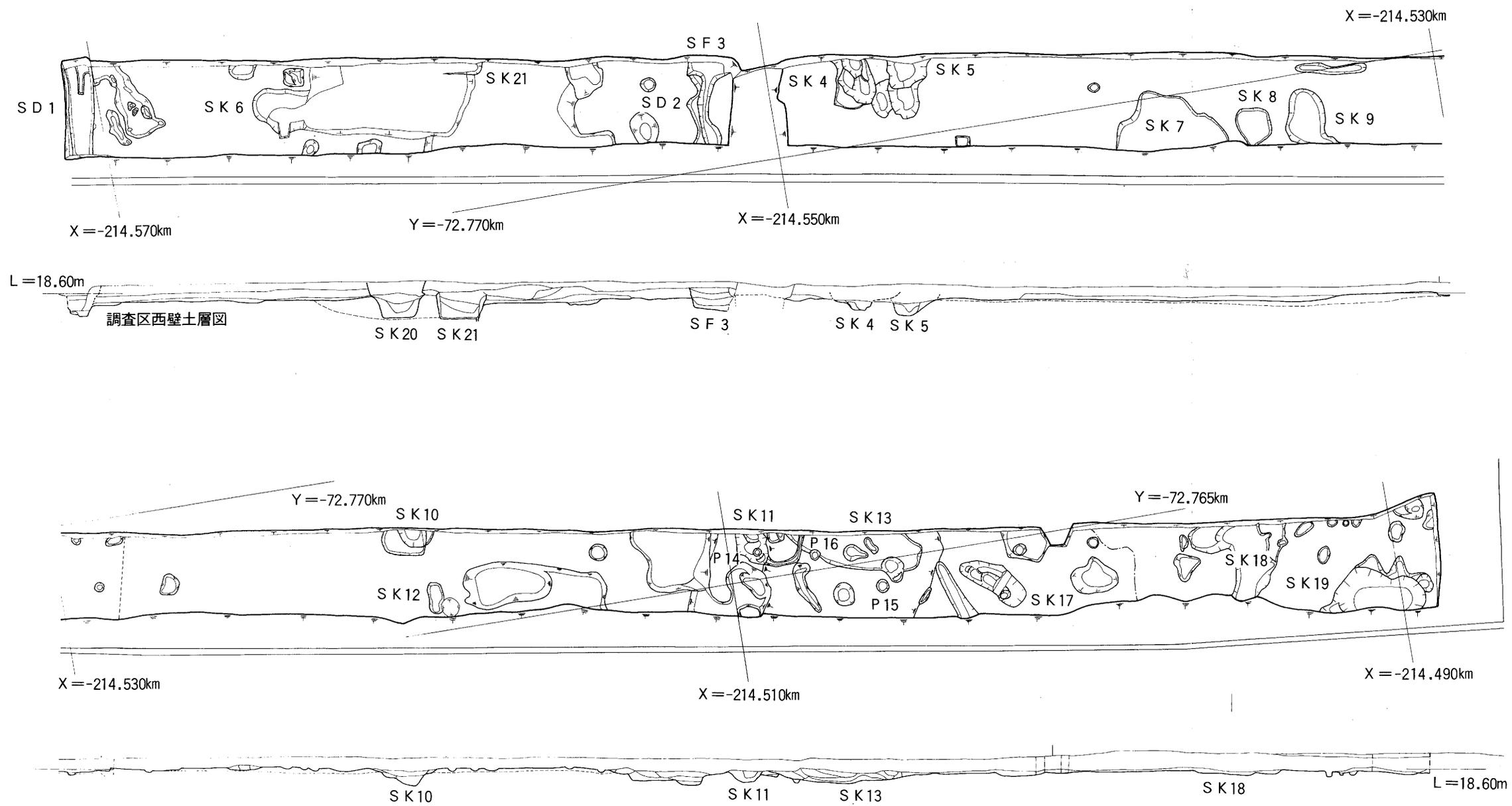
『田殿・尾中遺跡』 渋谷高秀・藤井保夫ほか 吉備町教育委員会 1982年3月

『野田・藤並地区遺跡発掘調査報告書』 藤井保夫・渋谷高秀ほか 和歌山県教育委員会
1983年3月

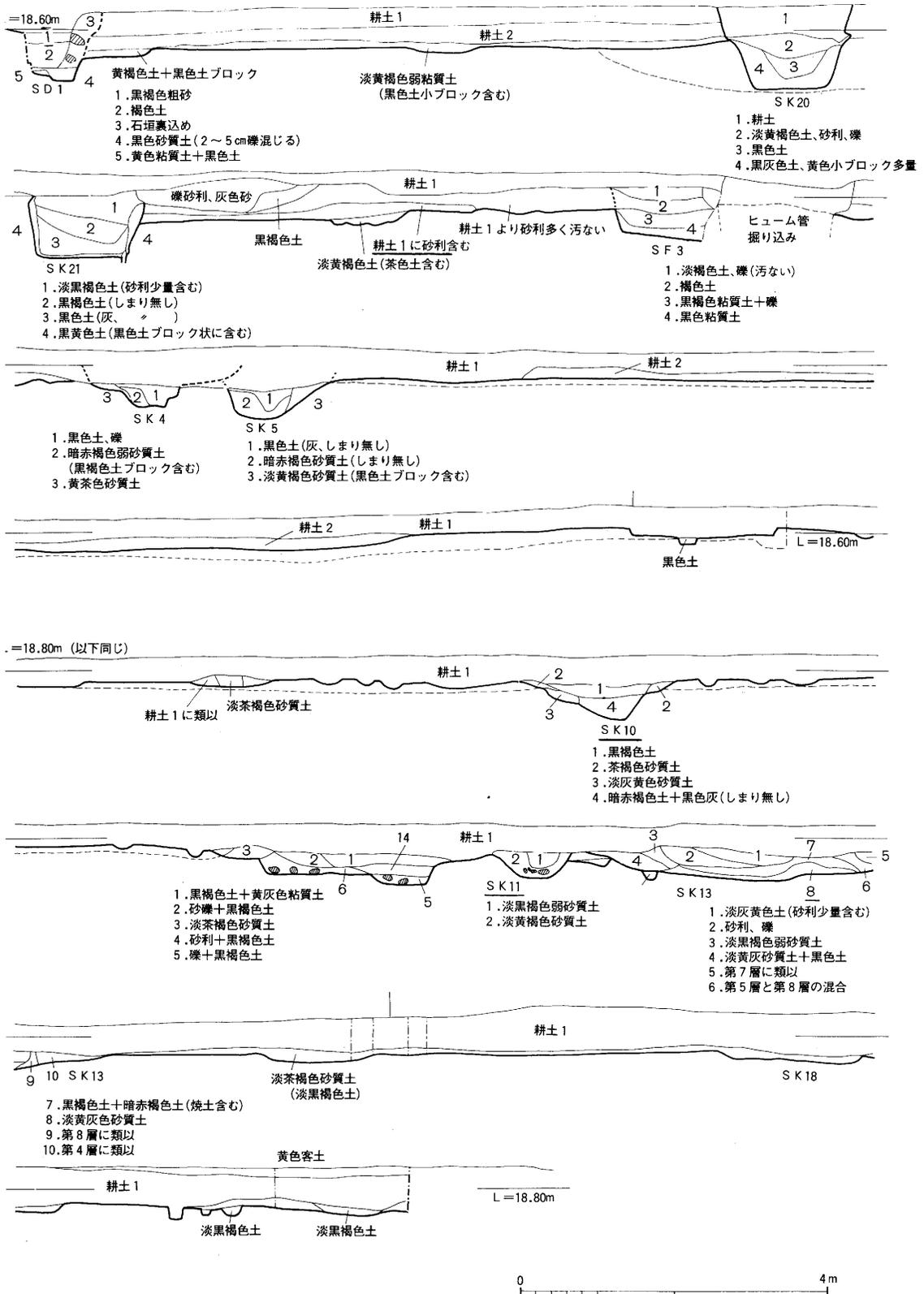
『野田地区遺跡発掘調査概報』 藤井保夫・瀬野耕平 吉備町教育委員会 1986年3月

『田殿尾中遺跡発掘調査概報』 村田弘（財）和歌山県文化財センター 1990年3月

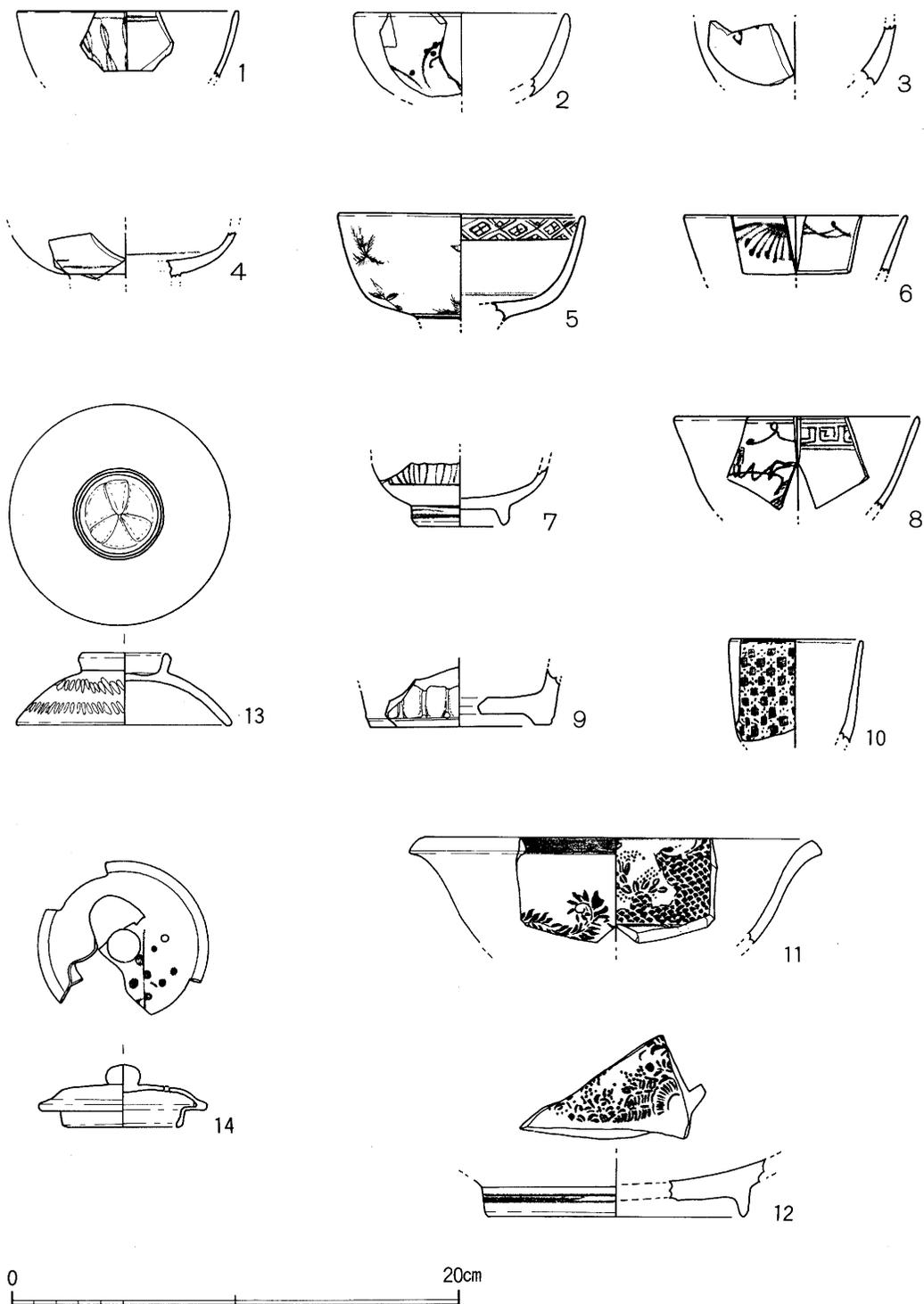
『平成2年度採択 緊急畑地帯総合整備事業 藤並地区工事概要』 和歌山県 1991年8月



第5図 調査遺構全体図

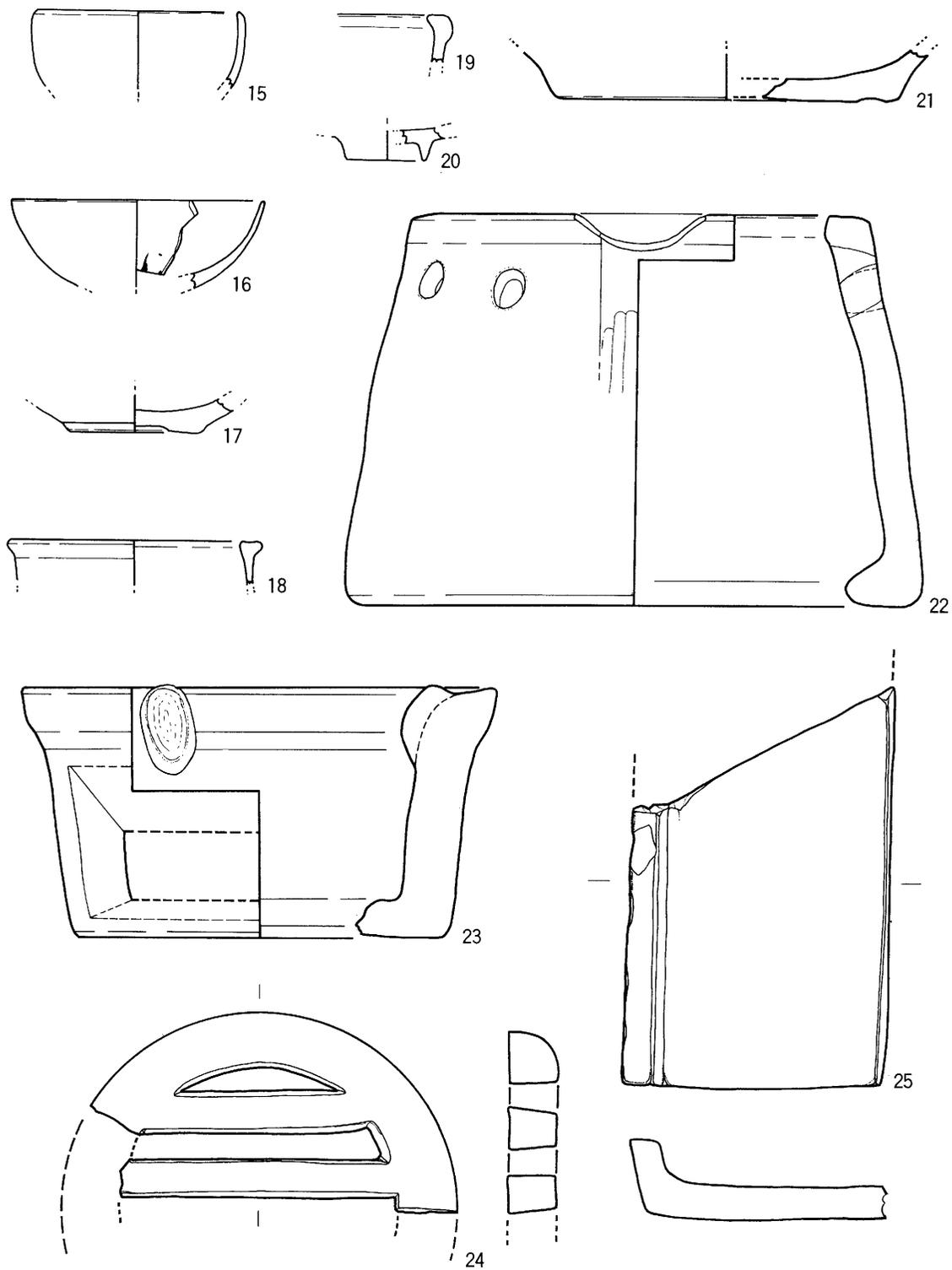


第6図 調査区西壁土層図



2 - S D 2 暗褐色砂礫層, 13・14 - S F 3 黒褐色粘質土, 他は耕土及び機械排土

第7図 出土遺物実測図



16-S D I 砂礫層、22~25-S F 3 黒褐色粘質土、0
 他は耕土及び掘削排土

20cm

第 8 図 出土遺物実測図



調査地遠景（北から）



調査前の状況（南から）



南側調査区遺構全景（南から）



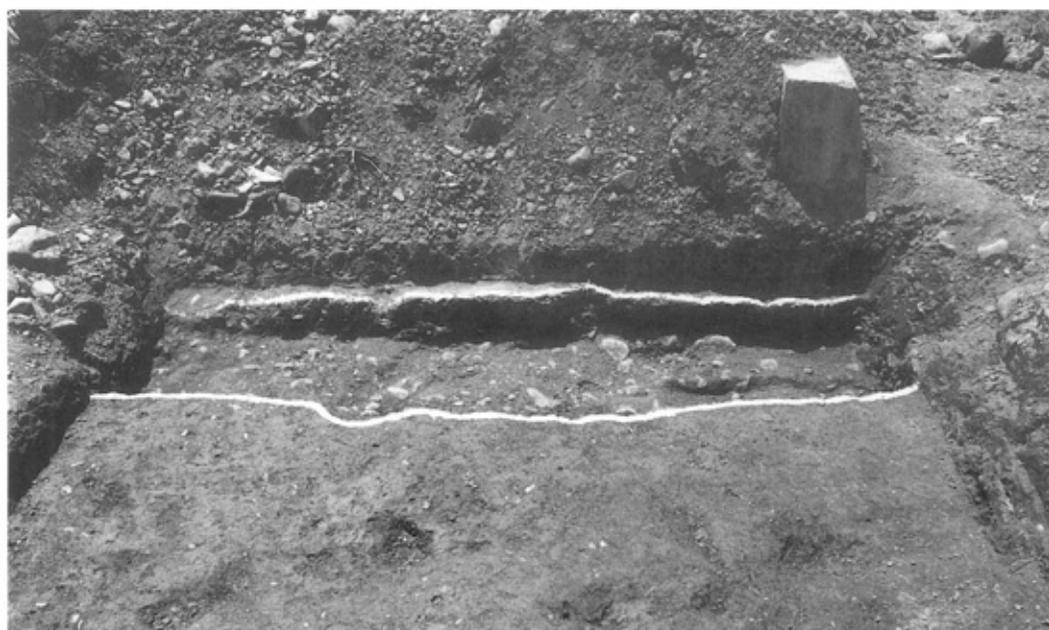
南側調査区遺構全景（北から）



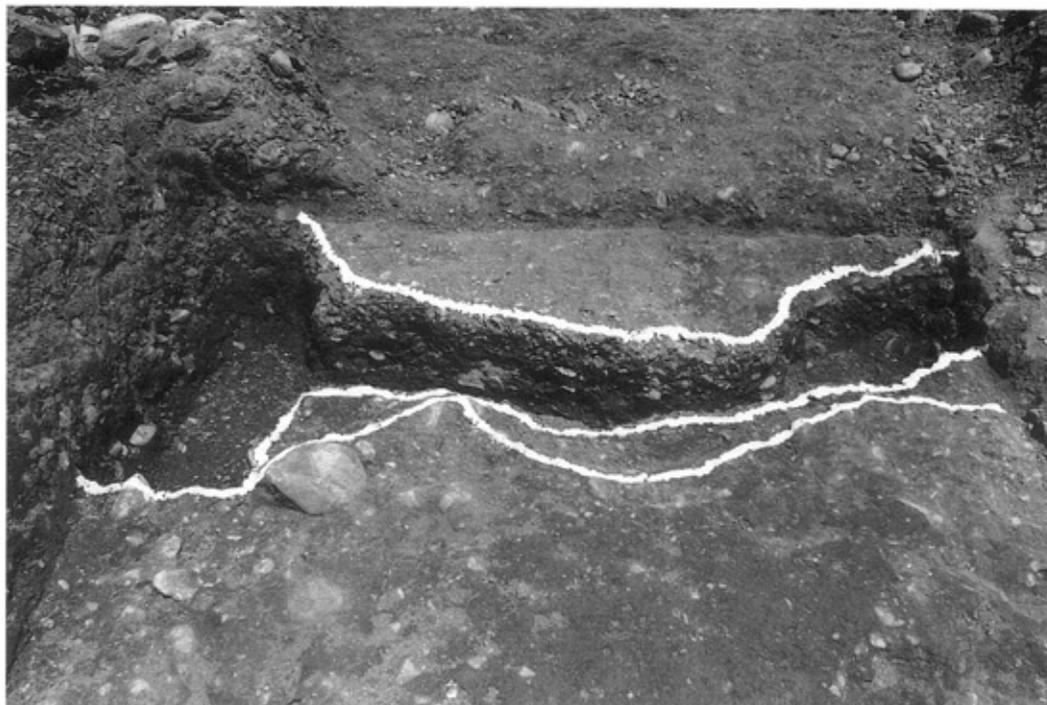
北側調査区遺構全景（南から）



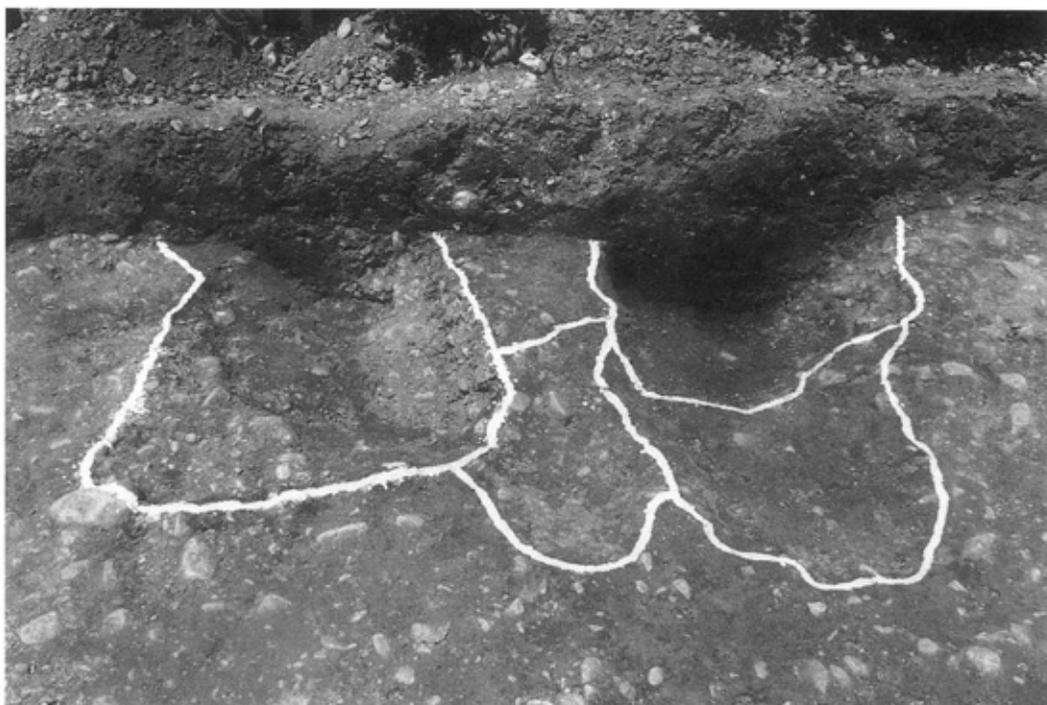
北側調査区全景（北から）



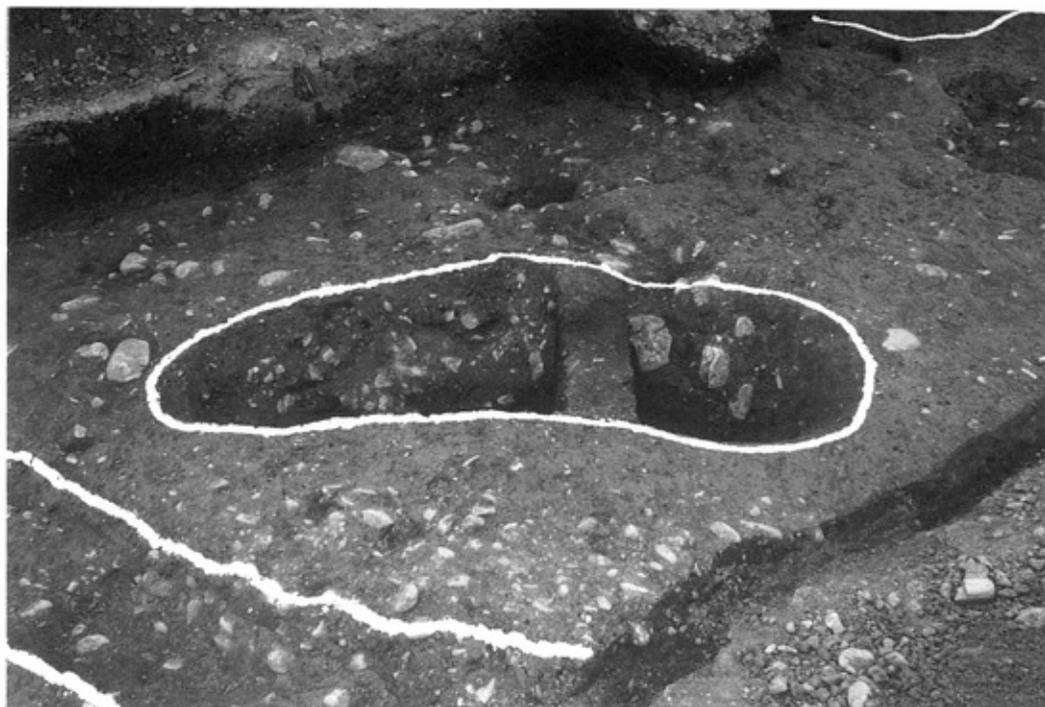
溝SDI（北から）



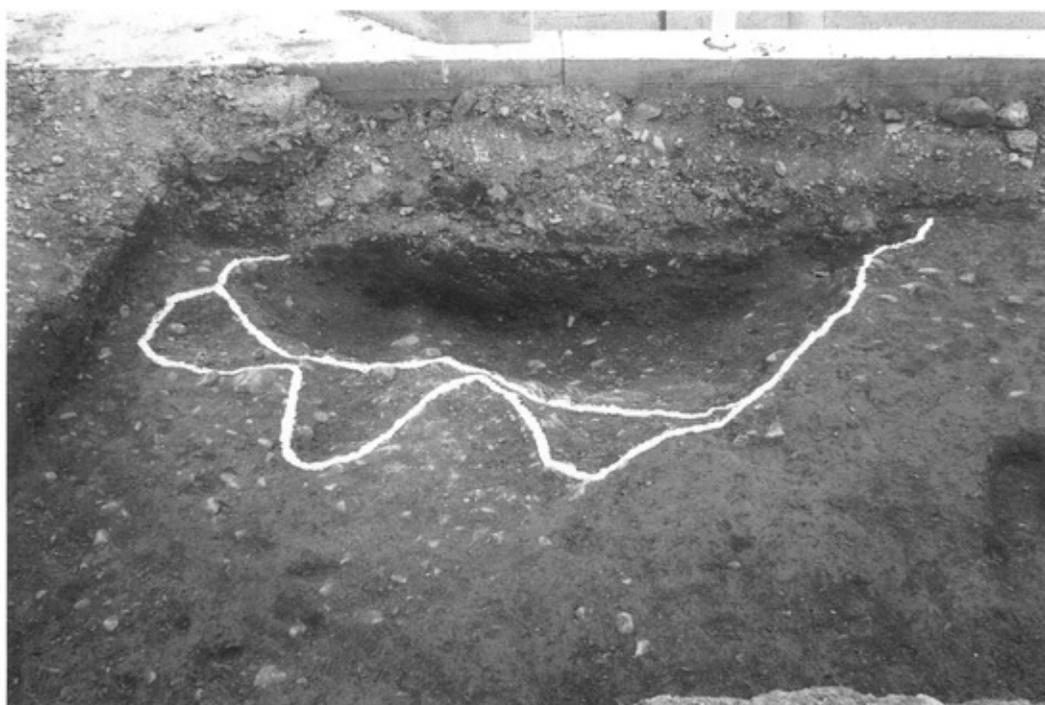
溜樹SF3・溝SD2 (南から)



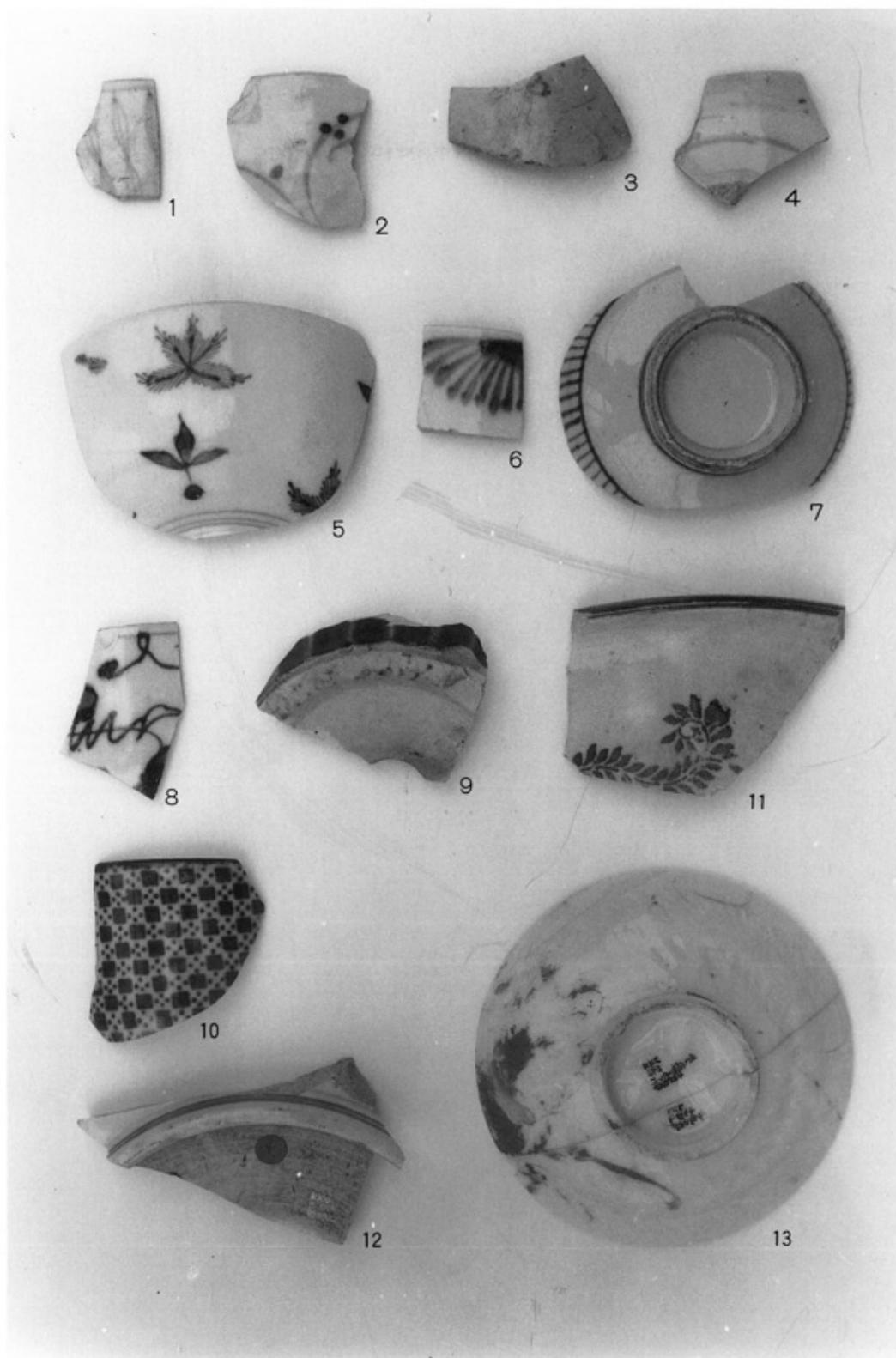
土坑SK4・5 (東から)



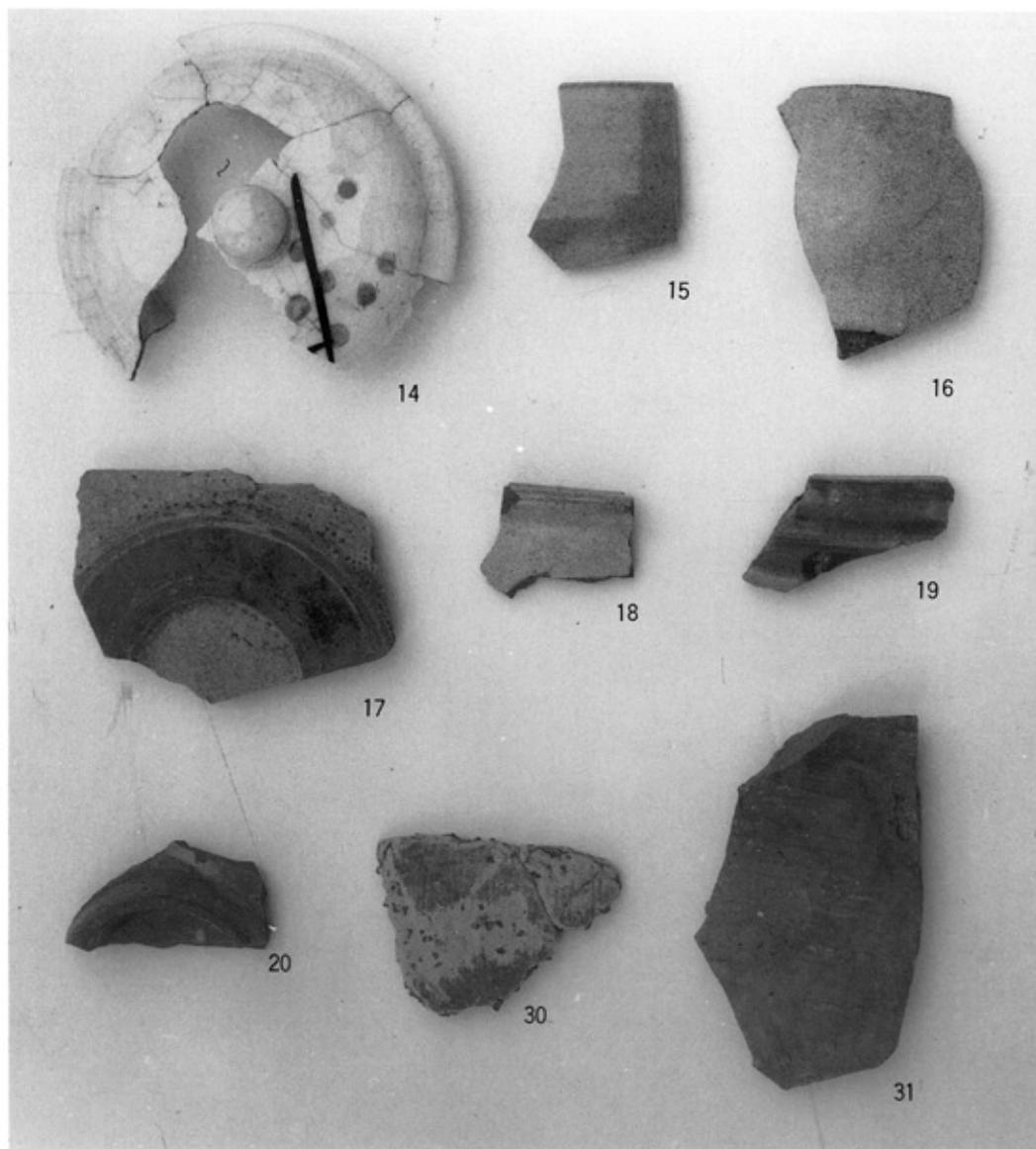
土坑 S K 17 (南東から)



土坑 S K 19 (西から)



出土遺物



出土遺物

和歌山県有田郡吉備町

旧吉備中学校校庭遺跡

県営緊急畑地帯総合整備事業
に係る発掘調査概要報告書

1992年10月

編集 財団 和歌山県文化財センター
発行 法人
印刷 中央印刷株式会社